

第2回8月 東大本番レベル模試 (2021年8月29日実施)

【1】-A (10点満点)

【例1】

活版印刷の発明によって実地教育は識字教育に移り、学ぶことは増え、学校では子供主体の学びでなく非実用的な教科まで教えるようになり、子供の好奇心をつぶしている。(78字)

【例2】

印刷機の発明で読み書きの必要性が高まり、現在のような学校教育が生まれたが、学びの範囲が広がり、子供よりも教科重視の詰め込みで子供たちの好奇心を失わせてきた。(78字)

必須項目 (10点)	<p>① 「15世紀半ばに印刷機が発明されたことで、ヨーロッパの教育が大いに変化し、それまでよりはるかに多くの人々にとって読み書きの能力が重要になった」(4点)</p> <p>The invention of the printing press in the mid-15th century had made literacy significant for far more people.</p> <p>▶ 「印刷機」(printing press)に相当するものがないものは2点減点。 × 「印刷」だけでは「印刷機」と認めない。 ○ 「活版印刷」は「印刷機」と認める。 ○ 「発明」はなくてもよい。</p> <p>▶ 「読み書きの能力」(literacy)に相当するものがないものは2点減点。 ○ 「読み書き／識字」は「読み書きの能力」と認める。</p> <p>② 「若者にすべてを学ばせようと、次から次へと教科や事実や規則を教えようとした。学校は重要な教科をすべて教えるカリキュラムを作り上げた。学びは子供中心ではなく、教科中心になった」(4点)</p> <p>They wanted the young to learn everything and wanted to teach subject upon subject, fact upon fact, and rule upon rule. Schools developed a curriculum where all important subjects were taught. But learning became subject-centered rather than child-centered.</p> <p>▶ 「教科」(subject)に相当するものがないものは2点減点。 ○ 「科目／学科」は「教科」と認める。</p> <p>▶ 「子供中心ではなく」(rather than child-centered)に相当するものがないものは2点減点。 ○ 「子供よりも(教科を重視する)」は「子供中心ではなく」と認める。</p> <p>③ 「多すぎる学習はほとんどの子供たちにとって単調な作業になり、早期の好奇心を失わせる」(2点)</p> <p>In those times, as now, too much learning would inevitably for most children turn into drudgery, killing early curiosity rather than nurturing interest.</p> <p>▶ 「好奇心を失わせる」(killing curiosity)に相当するものがないものは2点減点。 ○ 「興味／関心」(interestに相当)は「好奇心」と認める。 × 「意欲／やる気」は「好奇心」と認めない。</p>
---------------	---

- ① 内容の不足は上記配分で減点。内容の順序は問わない。
- ② その他、誤訳、不適切な表現は程度に応じて1～2点減点。
- ③ 字数制限を満たさないものは0点。

【2】－A (12点満点)

【例1】

What counts most is how much and what kind of material the library has. The Internet provides easy access to information. You have to play differently, however, when you begin to study a specialized field. Since there is no progress without accumulation of knowledge, you must refer to books and papers published in journals in order to enhance your knowledge of the historical development and basic principles in the field of your choice. That's where the library comes in. (79 語)

(何よりも大切なのは、その図書館にどれだけの量とどんな種類の資料があるかということだ。インターネットを使えば簡単に情報を得られる。しかし、専門分野の勉強を始めるときには、別のやり方が必要だ。知識の蓄積なくして進歩はないから、自分が選んだ分野の歴史的発展や基本原理についての知識を深めるために、書物や専門誌に掲載された論文を参照しなければならない。そこで図書館の出番となる)

【例2】

The most important thing for me is that the university provides a wide range of general education, not just specialized study. The world will be changing rapidly in the era to come, so we will need to keep learning new things. That is why it is essential to have general education, including classics, art, philosophy, etc., which can be applied to any age. With such a foundation, we will be able to learn new things more easily when needed. (79 語)

(私にとって最も重要なことは、大学が専門的な勉強だけでなく、幅広い一般教養を提供してくれることだ。これからの時代、世界は急速に変化していくので、私たちは常に新しいことを学んでいく必要がある。だからこそ、古典や芸術や哲学などを含む、どんな時代にも応用できる一般教養を身に付けていることが不可欠だ。このような基礎があれば、必要なときに新しいことをより容易に学ぶことができるだろう)

【例3】

What I place emphasis on in choosing my college is the cost of my college life. I cannot get financial help from my family, and I will rely on a scholarship and work part-time. I must live a college life with little money, which will be a good experience for my future independence. Therefore, reasonable college fees are the most attractive condition for my decision of a college to attend. (70 語)

(私が大学を選択する際に重視するのは、大学生活にかかる費用である。私は家庭からの資金援助は受けられないので、奨学金を頼り、アルバイトをするつもりだ。少ないお金で大学生活を送らなければならないが、これは将来の自立のための良い経験になるだろう。したがって、大学の授業料が妥当なことは、私が通う大学を決める上で最も魅力的な条件である)

1. 文法・語法・綴りの軽微な誤りは**1点減点**、重大な誤りは**2点減点**。同じ誤りでもすべて減点。
2. 語数制限(60～80語)を満たさないものは**0点**。
3. 内容面で下記に該当するものは、それぞれ該当の点数を減点。

【問題】

あなたにとって魅力ある大学の、最も重要な条件とは何か。理由を添えて、60～80語の英語で述べよ。

ポイント1 「あなたにとって魅力ある大学の、最も重要な条件」

- * 「あなたにとって魅力ある大学の、最も重要な条件」に無関係なものは**6点減点**。
- * 「最も重要な条件」について、ほとんど関連のない事柄を2つ以上挙げたものは**6点減点**。
- * 大学の魅力だけにしか触れていない(「最も重要な条件」がまったくない)ものは**3点減点**。
- * 「条件」の誤解は**3点減点**。

ポイント2 (「あなたにとって魅力ある大学の、最も重要な条件」の)理由

- * (「あなたにとって魅力ある大学の、最も重要な条件」の)理由がないものは**6点減点**。
- * 論旨が一貫していないと採点者が判断できるものは**3点減点**。

【2】－B (ア 6点 イ 6点 計12点満点)

(ア)

【例 1】 I decided to be bold and write a letter in French that looked like a literal translation of Japanese.

【例 2】 I shamelessly chose to write the letters in such a way that I directly replaced Japanese words with French ones.

【例 3】 I dared to write letters with sentences that sounded like word-for-word translations from Japanese.

(イ)

【例 1】 This is enough to convey the meaning and feelings to the reader, adding a Japanese flavor.

【例 2】 Not only does it fully express what I want to say and how I feel to those who read it, but it also gives them a sense of Japan.

【例 3】 Even with such a writing style, the receiver can adequately understand the meaning and heart of the message, which carries a Japanese touch.

1. 文法・語法・綴りの軽微な誤りは**1点減点**、重大な誤りは**2点減点**。同じ誤りでもすべて減点。
2. 以下の①～④の区分に指定の得点を配分。

(ア) (6点)

■ところが、必要に迫られたからでもあるが、こんなことではとても駄目だと思つて、(ア)思ひきり大胆に日本語の直訳みたいな文章で、手紙を綴ることにした。

- ①「思ひきり大胆に (2点) …手紙を綴ることにした (2点)」(4点)
- ②「日本語の直訳みたいな文章で」(2点)

(イ) (6点)

■それで相手には充分意味も心持も通じるし、日本的な味も出るのである。

- ③「それで相手には充分意味も心持も通じる」(4点)
- ④「日本的な味も出るのである」(2点)

【4】－B（ア）（4点満点）

<問題部分>

someone assumes that there is a limited supply of an item when the reality is that more of it can be produced

<例 1>

ある品目について、実際にはもっと作り出すことができるのに、供給が限られていると思込む。

<例 2>

現実にはもっと多く生産できるが、その物の供給は限られているものと見なす。

区分	配点	具体事例
someone assumes that ~ (人が) ~と仮定する	1点	○someone の訳はなくてもよい。 ×that が名詞節を導く接続詞だとわかっていないものは不可。
there is a limited supply of an item ある品目の供給が限られている	1点	×there is a limited supply に「限られた供給がある [存在する]」 など明らかに意味が伝わらない訳は不可 ×limited に「特別な/限定品の」は不可。 ×item に「アイテム」は不可。
when the reality is that ~ 現実には~という時に/実際には~なのに	1点	×when 以下が副詞節だとわかっていないものは不可。 ×that が名詞節を導く接続詞だとわかっていないものは不可 ×that 以下が is の補語だとわかっていないものは不可。
more of it can be produced それがもっと生産され(てい)る可能性 がある/それをもっと生産できる	1点	×more が can be produced の主語だとわかっていないものは不可。 ×more の訳抜けは不可。 ×it を an item 以外ととっているものは不可。

- ① 上記の区分に分けて配点。
- ② 語句の誤訳, 訳漏れ, 英語のまま, 不自然なカタカナ書きは減点。
- ③ 構文を理解した上での意識と認められるものは減点しない。

【4】－B（イ）（4点満点）

<問題部分>

each participant assigns a greater value to what the other has over what he or she already has

<例 1>

それぞれの当事者が、自分がすでに持っているものよりも相手の持っているものに、より大きな価値を見いだす。

<例 2>

取引を行う各々は、自分がすでに持っているものよりも相手が持っているもののほうに、より大きな価値を置く。

区分	配点	具体事例
each participant assigns a greater value to ~ それぞれの参加者がより大きな価値を～に割り当てる	1点	× each の訳抜けは不可。 ○ participant の訳は「参加者／当事者／取引者」など可。 × assign O to ~ の構文がわかっていないものは不可。 ○ assigns の訳は「(価値を) 認める／置く」など可。 × value に「価格／バリュー」は不可。
what the other has 相手が持っているもの	1点	× what the other has が to の目的語となる名詞節だとわかっていないものは不可。 × what が has の目的語だとわかっていないものは不可。 ○ the other に「片方／もう一方」は可。 × the other に「別の人／残り」は不可。
over what he or she already has 自分 [その人] がすでに持っているものより [以上に]	2点	× over が what he or she already has を目的語とする前置詞だとわかっていないものは不可。× what が has の目的語だとわかっていないものは不可。 ○ he or she の訳は each participant を指す代名詞だとわかっていないものは「彼または彼女」など広く認める。前後から分かれば訳がないものも認める。 × already の訳抜けは不可。

- ① 上記の区分に分けて配点。区分内に1か所でも誤りや訳漏れがあればその区分は0点。
- ② 語句の誤訳、訳漏れ、英語のまま、不自然なカタカナ書きは減点。
- ③ 構文を理解した上での意識と認められるものは減点しない。

【4】－B（ウ）（4点満点）

<問題部分> 下線部（ウ）を訳す際には，“it”が何を指しているかを明らかにせよ。

you will gain a popular hearing because it appeals to people's envy

<例 1>

この誤謬は人々の嫉妬心に訴えるから、俗受けはするだろう。

<例 2>

この論理的に誤った推論は人々の羨望を刺激するので、大衆の耳目を集められるだろう。

次の区分に分けて配点する。

区分	配点	具体事例
you will gain a popular hearing 大衆の傾聴を獲得するだろう	2点	○you の訳はなくてもよい。 ○you は「あなた／人」でもよい。 ×will の訳抜けは不可。 ○gain a popular hearing の意識は「多くの人に聞いてもらえる」など広く認める。 ×popular に「ポピュラーな」は不可。
because ... appeals to people's envy …は人々の嫉妬に訴えるので	1点	○appeal to ～の訳は「～に訴える」の類いを広く認める。 ×appeals に「アピールする」は不可。 ×people's の訳抜けは不可。 ○envy は「羨望／うらやみ／嫉妬（心）」など可。
it この誤謬	1点	×it に「それ」は不可。（設問指示違反） ×it を this fallacy 以外ととっているものは不可。 ○it は「その誤った考え／このような間違い」など可。 ○this fallacy の内容を説明したものも可。（「一人が得をすれば他の人は損をすること」「世界の富は増減しないという考え」など）

- ① 上記の区分に分けて配点。区分内に1か所でも誤りや訳漏れがあればその区分は0点。
- ② 語句の誤訳，訳漏れ，英語のまま，不自然なカタカナ書きは減点。
- ③ 構文を理解した上での意識と認められるものは減点しない。

【5】－(A) (4点満点)

<問題>

下線部(A)を、my opinion の内容が具体的にわかるように訳せ。

my opinion didn't matter much

<例1>

英語のできない者が2人揃っても役に立たない、という私の考えはあまり顧みられなかった。

<例2>

私1人でなく、同じく英語が出来ない母も一緒に学校へ行くほうがよい理由は分からなかったが、7歳の私の考えは大して重要ではなかった。

区分	配点	具体事例
my opinion 英語を話せない者が2人揃ったところで変わりはないという私の意見	2点	×「私の意見」だけでは不可。(設問指示違反) ○「英語を話さない2人のほうが英語を話さない1人よりなぜよいのか、私は理解できなかった」「英語を話せない者が2人揃ったところで変わりはない」という内容に近いものを広く認める。
～ didn't matter much ～は大して問題にならなかった	2点	×matter が「問題となる、重要である」という意味の動詞だとわかっていないものは不可。意識は広く認める。 ×(not) much (部分否定) の訳抜けは不可。 ○「どうしてもよかった」は「あまり重要でなかった」と認める。 ×過去時制の訳になっていないものは不可。

- ① 上記の区分に分けて配点。区分内に1か所でも誤りや訳漏れがあればその区分は0点。
- ② 語句の誤訳、訳漏れ、英語のまま、不自然なカタカナ書きは減点。
- ③ 構文を理解した上での意識と認められるものは減点しない。

【5】－(B) (4点満点)

<問題>

下線部(B)の, we were stupid の具体的な内容を 30 字以内の日本語で説明せよ。

because we were stupid

<例 1 >

母国を世界地図上で指し示すことができないほど無知だったこと [から]。(29 字)

<例 2 >

母親が地図上で出身国の場所も答えられないような親子だったこと [から]。(30 字)

- ① 31 字以上は 0 点。
- ② 日本語訳を答える問題ではないことに注意。
- ③ 次の (1) (2) が必須項目。

※趣旨そのものが違うものは**－4 点 (0 点)**

※概ね趣旨が正しいものについて, 次の (1), (2) の要素の欠落は配分の点数を減点。

(1) 「地図 (map)」に相当するもの (これがないものは**2 点減点**)

○ 「地理 (geography)」があれば「地図」があるものと認める。

(2) 「(母親が／自分たちが) 母国 [出身国] がわからなかった」に相当するもの (これがないものは**2 点減点**)

○ 「イラン, 自分の国」なども可。

※ we の説明の有無は不問。